

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 〈令和7年度〉

法人名	社会福祉法人 崇仁会
施設名	北沢みこころ保育園
所在	世田谷区北沢 4-16-6
クラス	わかば組 2歳児

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然 ～食育:野菜を育てて、味わってみよう！～

〈テーマの設定理由〉

戸外で遊ぶことが大好き、また日頃から図鑑を用い、虫や生きものを観察する姿が見られることから大きなテーマを〈自然〉に設定し、様々な視点から自然を捉え、取り組んでいきたいと思ったから。今回は食育の観点で、野菜を苦手とする子どもが少なくないため、自分たちで苗を植え、育てて収穫、調理していただいたものを口にしてみることで、友だちと協力して育てる達成感や喜びを味わい、自然の恵みに感謝して食すことができるようになればよいと考えから取り組んだ。

2. 活動スケジュール

- | | |
|-------|--|
| 5月中旬 | 野菜の苗を植える。 |
| 5月～8月 | 水やりをしながら、株の丈を測ったり、葉と実の形や色、大きさ、とその変化を観察。 |
| 7月～8月 | 収穫して味わい、食への興味関心を高める。
野菜の葉っぱスタンプで製作を楽しむ。 |
| 8月～9月 | 収穫を終えて、枯れてしまった野菜の株を引き抜き、プランターを片付ける。 |

3. 活動のために準備した素材や道具

- トマト、ナス、きゅうり、コーンの苗（それぞれ2株ずつ）
- プランター4つ（1種類にプランター1つ用意）
- 培養土（+調理で出た生ごみを利用して園で作った土）
- ジョウロ8つ
- スコップ、ビニールシート、支柱

4. 環境構成

1つのプランターに1種類の野菜を植えるよう、プランターと土を用意。

1つの野菜を2名の子どもが担当することにし、自分たちで世話をする野菜を選択した。

園庭のプランターは、観察しやすいよう、合同保育で毎日使用しているクラスの窓から見える場所に配置した。

5. 探究活動の実践

《活動内容》

5月16日 〈野菜の苗を植える〉

トマト、ナス、きゅうり、コーンを育てる話をして、誰がどの野菜を担当するか、朝の会で決めた。園庭に出て、担当のプランターの前に座り、給食の先生から苗の植え方を教わる。スコップで土に穴を掘り、苗を入れて周りの土を固めてから、最後にジョウロで水やりをした。

～9月 〈野菜の水やりと観察〉

毎日のように野菜を見に行き、土の表面が乾いている時には、ジョウロで水やりをした。また、どれくらい大きくなったかは、途中から紙テープに印をつけて記録。時折、葉を取って感触や匂いを楽しんだり、製作にも利用した。

～9月 〈野菜を味わう〉

収穫した野菜を給食の先生に渡し、調理していただいて、温野菜サラダやみそ汁などを味わった。

8月中旬～〈片付け〉

収穫を終え、枯れてきた野菜の株を順に片付けた。担当の子どもが野菜の株と支柱を引き抜き、プランターの土をビニールシートに広げて、プランターを水洗いした。

《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり》

5月16日 〈野菜の苗を植える〉

担当する野菜を決める時には、やりたい野菜に拳手してもらつたが、食べるのが好きな野菜を必ずしも選んだわけではなかったことが興味深い。希望者の多い野菜もあったが、話し合いで決めることができた。栄養士に苗の植え方や水やりの仕方を教わるときには、真剣な表情で聞いていて、実行する時もまるで神聖な儀式のようにまじめな表情で行っていたが、水やりを終えると安堵したのか「できた！」と笑顔がこぼれていた。



～9月〈野菜の水やりと観察〉

日々、0歳児クラスから野菜を観察。水やりに野菜を見に行くと、ジョウロを持って一目散に自分の担当している野菜に向かう。野菜の横に「立っててつぺんが自分の体のどこまでくるのかな」などといながら成長を確認。実ができ始めると、まだ小さくて青い状態でも「もう食べられる？」と保育者に聞いて、収穫を心待ちにしていた。それぞれの葉を取って、絵の具を塗り、画用紙にスタンプして製作を楽しんだ時には、「ちくちくするね。」「でこぼこ～。」「いいにおいがする！」など、いろいろなことを感じながらスタンプを楽しんでいた。

～9月〈野菜を味わう〉 収穫後、給食の先生に野菜を届けに行くときは、たとえ小さな実であっても大事に握って、いつも誇らしげな表情で「おねがいします。」と手渡していた。実際に野菜が調理されて提供されると、「おいしいね～。」と言う子もあれば、「すっぱい！」と正直な感想を漏らしたり、やはり苦手で一口で終える子もいた。



6. 振り返り

《振り返りによって得た保育者の気付き》

・子どもたちは、野菜に限らず、虫や草花など、自然への興味が高まっていき、毎日のように図鑑を開いて、実物と見比べながら観察するようになった。

・野菜の栽培を始めてからは、給食を食べる際、「これはだれがつくったおやさい？」「これはだれがおりようりしてくれたの？」など質問が飛び交うようになり、食への関心が高まったことがうかがえる。

・野菜がどのような状態になったら収穫できるのか、初めは曖昧だったが、日々観察していくうちに、色や感触でわかるようになっていった。

・栽培した野菜を食べてみて、家で出されている野菜の味と比べてみたり、食べられなかつたものが食べられるようになる子もしてきた。

○今回の活動を通し、普段何気なく食べている食材がどのように育ち、また収穫までの難しさや食すことの喜び・達成感等、様々な思いを友だちと共に味わうことができた。この活動を通し、今後も食への関心を深めることができるように、疑問や気付きを皆で共有し、楽しんでいきたいと思う。